

たい こ ばた  
太 鼓 番 遺 跡

- 山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書 -

2011.3

山梨県教育委員会  
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構

たい こ ばた  
太 鼓 番 遺 跡

- 山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書 -

2011.3

山梨県教育委員会  
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構



# 太鼓畠遺跡のあらまし

太鼓畠遺跡は、笛吹市御坂町竹居字太鼓畠にあります。この場所は、山梨リニア実験線を建設することになったため、試掘調査を行ったところ、新たに遺跡が発見されました。そこで字名から太鼓畠遺跡として、平成21年に本格的な発掘調査が行われました。ここでは、太鼓畠遺跡発掘調査のあらましをご紹介したいと思います。

調査風景



太鼓畠遺跡は、御坂山塊から流れ出す浅川や竜蛇川によって形成された小丘上に位置し、標高は425m前後を測ります。遺跡の周辺には、縄文時代前期後半（今から約6000年前）を中心とする集落遺跡として有名な花鳥山遺跡や、縄文時代中期後半（今から約4500年前）の土坑と呼ばれる穴から、長さ11cmもあるヒスイで作られた、美しいペンダントが出土したことでも有名な、三光遺跡があります。

太鼓畠遺跡のある笛吹市御坂町には、古代の役所があったと考えられています。また、金川沿いに御坂峠を越え、富士河口湖・御殿場方面を結ぶ道があり、古代においては東海道分岐路の官道（甲斐路）として成立していました。このような歴史的風土から、笛吹市御坂町は、古代から人々の営みが盛んであったと考えられます。

包含層の断面



包含層の遺物出土状況



太鼓畠遺跡からは、縄文時代から平安時代にかけての遺物が含まれる土層（包含層といいます）が確認されました。包含層（上の写真）は厚いところでは、1m近く堆積しており、人力でていねいに掘り下げていくと、土器や石器が出土しました。

包含層を掘り下げていくと、平安時代（今から約1200年前）の堅穴住居跡（1号住居跡）が検出されました。住居跡は全体の2/3が残っており、一辺が約4mほどの方形になると思われます。住居跡からは、土器や小刀と思われる金属製品などが出土しました。

1号住居跡出土土器

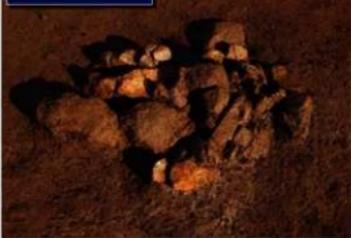


1号住居跡出土金属製品



住居の東の壁際にはカマドが検出され、カマドを構築する黄褐色の粘土が検出されました。粘土を慎重に取り除きながら調査を進めると、赤く焼けた土の上から土器の片が出土しました。また、カマドの芯材として用いられる石や土器を支える支柱など、カマドの基礎となるものが出土しなかったことから、このカマドは使われなくなった後、故意に壊して、何らかの祭祀を行った可能性があります。

集石遺構



太鼓畑遺跡では、調査区の西側で石がまとまって出土する、集石遺構という遺構が検出されました。集石遺構は石蒸し料理などに用いた石を集めた遺構と考えられています。本遺跡で検出された集石遺構も、そのような用途に用いられた石を集めた可能性があります。

1号住居跡



太鼓畑遺跡全景



太鼓畑遺跡は、山梨リニア実験線建設に伴い試掘調査を行った結果、新たに発見された遺跡です。今回の本調査で平安時代の住居跡や縄文～平安時代にかけての遺物包含層、集石遺構などが検出されたことは、大きな成果といえます。特に平安時代の住居跡の検出は、周辺に当該期の集落があった可能性を示しており注目されます。

## 序 文

本書は山梨リニア実験線建設に伴い実施した、笛吹市御坂町竹居地内に位置する太鼓畠遺跡の調査成果をまとめた報告書です。

太鼓畠遺跡は、平成19年度に行われた試掘調査の結果を受け、新たに登録・周知された埋蔵文化財包蔵地です。試掘調査では、平安時代の包含層が検出されましたが、平成21年度に行われた本調査では、縄文時代前期から中期にかけての遺物も出土する遺物包含層であることがわかりました。

1軒の平安時代の住居跡は、著名な花鳥山遺跡の所在する花鳥山の斜面に立地し、環境からはとうてい集落が展開するような立地ではなく、居住形態が注目されます。住居跡からは多数の土師器や小刀などの金属製品が出土し、これら遺物の出土状況から住居で廃棄に関わる祭祀が行われた可能性があります。このほか、集石遺構、土坑などの遺構も検出されましたことは、本遺跡が多時期に渡り利用されたことを物語っています。

表面観察では確認できない埋蔵文化財包蔵地を試掘調査で確認し、新たな知見を得ることができましたことは、地域の歴史を知るうえで大きな成果といえます。本書が本県の歴史や文化に関わる学習並びに研究に対しまして、少しでも貢献できれば幸いです。

最後に、調査にあたってご協力頂いた独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構をはじめ、関係機関、関係者に厚く御礼を申し上げます。

2011年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 小野正文



## 例 言

1. 本書は、山梨県笛吹市御坂町竹居地内に所在する太鼓畠遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は山梨リニア実験線建設に伴うもので、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構からの委託を山梨県教育委員会が受け、山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 遺跡の所在地は、山梨県笛吹市御坂町竹居字太鼓畠3237-2外である。
4. 発掘調査期間は、平成21年8月28日～11月4日、室内調査は基礎的整理が、平成22年1月5日～3月10日まで、本格的整理が平成22年9月1日～9月30日となる。
5. 報告書の編集および執筆は、三田村美彦が行った。遺構の写真は、三田村・小澤美和子が、遺物の写真は三田村が撮影した。
6. 室内調査の場所は、山梨県埋蔵文化財センター（山梨県甲府市下曾根町923）である。
7. 発掘調査に係る図面や写真などの記録類や出土品は、山梨県埋蔵文化財センター（山梨県甲府市下曾根町923）に保管してある。
8. 発掘調査に係る調整機関は、山梨県教育委員会学術文化財課埋蔵文化財担当である。
9. 金属製品に係る保存処理は、小澤が行った。
10. 発掘調査に係る基準杭、標高杭及びグリッド杭の設置は昭和測量株式会社に委託した。
11. 発掘調査に係る航空写真および測量は、（株）東京航業研究所に委託した。
12. 調査にあたり、次の組織や方々にご指導及びご協力いただいた。記して謝意を表したい。  
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、笛吹市教育委員会、望月和幸

## 凡 例

1. 掲載した遺構図面の縮尺は原則として下記のとおりである。  
遺跡関連図 発掘調査範囲図 1/1.000 遺跡位置図 1/10.000 遺構全体図 1/200 グリッド設定図 1/300 基本層序 1/60  
遺構関連図 平面図 1/60 1/30 1/20 断面図・土層図 1/60 1/30 1/20
2. 遺物実測図の縮尺は下記のとおりである。  
土器 1/3 石器 1/3 1/1 金属製品 1/2
3. 遺構平面図の網目は次のとおりである。  
 撓乱、火床面。
4. 基本層序及び、遺構覆土の色調は「農林水産省農林水産技術会議事務局監修2001『新版 標準土色帳』」を参考とした。
5. 遺物分布図の表記は次のとおりである。  
●上器 ■金属製品 ▲炭化核
6. 遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。
7. 遺構図・全体図などに示した方位は世界測地系座標による真北である。
8. 遺物挿図中、土器類の断面が黒く塗りつぶしてあるものは、須恵器、網目は灰釉陶器を示す。また、土器類の器体内面において網目は黒色処理された範囲、部分的な網目は煤の付着、灰釉を示す。

## 本文目次

あらまし

序文

例言

凡例

目次

### 第Ⅰ章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の目的と課題	1
第3節 発掘調査の経過	1
第4節 室内調査等の経過	2
第5節 調査組織	2

### 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2

### 第Ⅲ章 調査の方法

第1節 調査の方法	4
第2節 層序	4

### 第Ⅳ章 検出された遺構と遺物

第1節 1号住居跡	5
第2節 1号集石遺構	5
第3節 土坑	6
第4節 グリッド出土遺物	6
第V章 総括	6
写真図版	17

抄録

### 挿図目次

第1図 太鼓畝遺跡発掘調査範囲	1	第13図 1号集石遺構平・断面図	16
第2図 周辺の遺跡地図	3	第14図 グリッド出土遺物	16
第3図 太鼓畝遺跡グリッド設定図・基本層序	10		
第4図 太鼓畝遺跡遺構全体図	10		
第5図 1号住居跡平・断面図	11		
第6図 1号住居跡掘り方平・断面図	11		
第7図 1号住居跡遺物出土状況図	12		
第8図 1号住居跡カマド平・断面図	12		
第9図 1号住居跡出土遺物	13		
第10図 1号住居跡出土遺物	14		
第11図 1号住居跡出土遺物	15		
第12図 土坑 平・断面図	16		

## 表目次

第 1 表 遺跡一覧表 ······	4
第 2 表 太鼓畠遺跡出土坑一覧表 ······	8
第 3 表 太鼓畠遺跡出土土器類觀察表 ······	8
第 4 表 太鼓畠遺跡出土石器觀察表 ······	9
第 5 表 太鼓畠遺跡出土土製品觀察表 ······	9
第 6 表 太鼓畠遺跡出土金屬製品觀察表 ······	9
第 7 表 太鼓畠遺跡モモ炭化核觀察表 ······	9

## 写真図版目次

図版 1 ······	19
図版 2 ······	20
図版 3 ······	21
図版 4 ······	22



## 第Ⅰ章 調査の経緯と経過

### 第1節 調査に至る経緯（第1図 発掘調査範囲図）

平成19年9月18日から12月18日の間、笛吹市御坂町から同市八代町にかけて建設される山梨リニア実験線建設区間に埋蔵文化財の有無を確認するため、試掘調査が実施された。その結果、笛吹市御坂町竹居字太鼓畠地内で平安時代の遺物包含層が確認されたため、新たに太鼓畠遺跡として登録され、本調査を行うことになった。平成21年4月27日には、事業主体者である独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構と学術文化財課、埋蔵文化財センターの3者が本調査範囲の確認やその期間、調査工程を現地で協議した。これに基づき、本調査は8月28日から開始し、11月4日に終了した。

これらに要する発掘調査と報告書刊行を含めた整理作業の経費は独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構が負担した。以上の太鼓畠遺跡の発掘調査に係る法的手続きは以下のとおりである。

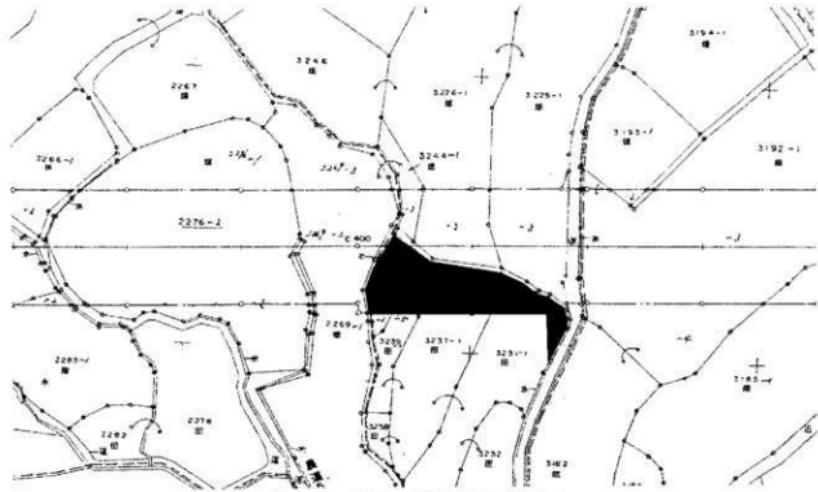
平成21年8月24日文化財保護法第99条に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長へ提出（教理文第401号）。平成21年11月4日遺失物法第13条に基づく埋蔵文化財の発見通知（教理文第571号）を山梨県教育委員会教育長に提出し、石和警察署長への通知を依頼。平成21年11月18日山梨県教育委員会教育長へ発掘調査結果報告書を提出（教理文第617号）、平成22年3月5日山梨県教育委員会教育長へ実績報告書を提出（教理文第883号）。

### 第2節 調査の目的と課題

調査に至る経緯にも記したとおり太鼓畠遺跡は、新たに発見された遺跡であるため、本格的な調査が行われておらず、その性格は不明な点が多くかった。今回の調査は部分的ではあるが、山梨リニア実験線建設範囲内で本格的な調査を行うことができるため、その一端を解明することが課題となり、今回の調査の主たる目的となる。

### 第3節 発掘調査の経過

8月28日、プレハブなどの発掘施設の設置を行うと同時に、小型重機（0.15m<sup>3</sup>）による表土剥ぎを開始する。



第1図 太鼓畠遺跡発掘調査範囲図

9月1日からは、作業員を投入して調査区周辺の環境整備を行う。9月2日には小型重機による表土剥ぎが終了し、基準杭及びベンチマークの設置を行う。その後、人力による遺物包含層の掘り下げを開始した。9月14日には、包含層中から平安時代の住居跡を確認。住居跡の精査を包含層の掘り下げと並行して開始する。包含層は20cmから1m近く堆積した箇所も認められ、縄文時代中期の土器片や石器類も出土し、掘り下げに予想以上の時間を要した。台風の影響で調査が中断されることがあったが、10月1日には平安時代の住居跡の床面やカマドを検出し、10月7日には写真、図面作成を完了。調査区西側では集石遺構を確認、集石遺構と住居跡のカマドの精査を開始する。10月22日には、集石遺構やカマドの精査を完了し、住居跡の掘り方と調査区東側の調査に着手。10月29日にはこれらの調査を完了し、委託した航空測量、残務整理を行い、11月4日プレハブなど発掘施設の撤収を行って調査を終了する。

#### 第4節 室内調査等の経過

室内調査のうち、遺物の水洗、註記、接合、復元、図面整理など基礎的整理は平成22年1月5日～3月10日まで行った。遺物実測トレース、遺構トレース、図版作成、写真図版作成など本格的整理は、平成22年9月1日～9月30日まで行い、原稿執筆は平成22年9月13日～10月15日まで行った。報告書の入稿は平成22年11月8日で、刊行は平成23年3月25日となった。

#### 第5節 調査組織

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

2007年（平成19年）試掘調査担当：田口明子・正木季洋

2009年（平成21年）発掘調査担当：三田村美彦・小澤美和子

作業員：大森 卓・飯野金雄・河野敏彦・小菅春江・小林としみ・

中込 樹・広瀬ありさ・宮下真紀子・望月 明

2009年（平成21年）基礎的整理担当：三田村美彦・小澤美和子

作業員：齊藤律子・新津多恵

2010年（平成22年）本格的整理担当：三田村美彦・石井 明

作業員：森 奈奈

## 第II章 遺跡の位置と環境

#### 第1節 地理的環境

太鼓畠遺跡は笛吹市御坂町竹居字太鼓畠に所在する。御坂山塊からは、多くの河川が甲府盆地へ北流し、笛吹川に合流する。これらの河川は御坂山塊を南北方向に開析し、その端部を中心に扇状地や河岸段丘、小丘を形成しており、多くの遺跡が分布する地域である。太鼓畠遺跡も浅川や竜蛇川など御坂山塊から甲府盆地へ南流する河川によって開析された小丘上に位置しており、標高は425m前後を測る。

#### 第2節 歴史的環境（第2図 周辺の遺跡地図）

太鼓畠遺跡（1）の所在する笛吹市御坂町は、平成16年10月12日に近隣の町村と合併し、旧町名は御坂町である。

御坂町は聖徳太子の「甲斐の黒駒」伝説で知られ、同様の地名があることから当時、牧が存在したという説がある。加えて、町内に国衙という地名があることから、古代甲斐国を中心的官衙が存在したと考えられている。また、国衙と東海道をつなぐ甲斐路（御坂路）が存在する。この道は金川沿いに御坂峠を越え、富士河口湖・御殿場方面を結ぶもので、古代においては官道として成立した。このような歴史的風土から笛吹市御坂町には多く



第2図 周辺の遺跡地図

の遺跡が分布しており、先史から古代にかけて人々の営みが盛んであったことは想像に難くない。以下、太鼓煙遺跡周辺の主要な遺跡を概観したい。

前述のとおり、太鼓煙遺跡周辺では多くの遺跡が分布する。なかでも特筆すべきは、本遺跡の南東にある丘陵上にある花鳥山遺跡である。花鳥山遺跡は同町にある中丸遺跡同様、県内でも古くから知られた縄文時代の遺跡で、昭和に入ると個人のほか、國學院大學、山梨県埋蔵文化財センターによる発掘調査が行われ、縄文時代前期後半諸磯式期の堅穴住居跡や大量の遺物が出土し、当該期の提点的集落跡として注目される。また、昭和50年に調査された本遺跡の西側に所在する三光遺跡では、縄文時代中期後半～晚期の遺物や遺構が検出されている。この調査では縄文時代中期後半と考えられる土坑からヒスイの大珠が出土しており、全国的にも有名である。また、今回の山梨リニア実験線建設に伴い平成20年にも調査が行われており、縄文時代中期初頭～後期前葉の遺物や遺構が出土している。

#### 参考文献

御坂町	1971	『御坂町史』
八代町	1975	『八代町史』上巻
田代 孝ほか	1979	『三光遺跡』『御坂町の埋蔵文化財』甲斐丘陵考古学研究会・御坂町教育委員会
山梨県教育委員会ほか	1989	『花鳥山遺跡・木呑場北遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第45集
山梨県	1998	『資料編1』『山梨県史』

第1表 遺跡一覧表

遺跡名	種別	時代	遺跡名	種別	時代
1 太鼓煙遺跡	集落跡	縄文・平安	12 袖木遺跡	散布地	縄文・平安・近世
2 花鳥山遺跡	集落跡	縄文	13 前田遺跡	散布地	縄文・古墳・平安・近世
3 土原遺跡	散布地	縄文	14 後藤遺跡	散布地	縄文・平安・中世・近世
4 坂下遺跡	散布地	縄文	15 梅ノ木田遺跡	散布地	縄文・中世・近世
5 広済寺遺跡	散布地	縄文・平安	16 八反田遺跡	散布地	縄文・古墳・平安・中世・近世
6 切付平遺跡	散布地	縄文・古墳・平安	17 三ッ沢遺跡	散布地	奈良・平安
7 深沢道上遺跡	散布地	縄文	18 上坊地遺跡	散布地	縄文
8 欠沢遺跡	散布地	古墳	19 原遺跡	散布地	古墳・奈良・平安・中世
9 三光遺跡	集落跡	縄文	20 一町田遺跡	散布地	奈良・平安
10 竹居御崎遺跡	散布地	縄文	21 高家条里遺構	条里	奈良・平安
11 久保畠遺跡	散布地	縄文・古墳・平安・近世			

## 第III章 調査の方法

### 第1節 調査の方法（第3図 グリッド設定図）

試掘調査の結果から約40cm堆積している表土除去を小型重機（0.15m）を用いて行った。その後、人力による遺物包含層の掘り下げ及び、遺構確認、遺構精査を行った。遺構の記録や出土遺物の取り上げは主として平板測量を用いた。また、調査区全域の航空写真と測量を委託事業として行った。グリッドは世界測地系座標に基づき5 mで設定した。

### 第2節 層序（第3図 基本層序）

本遺跡では調査区の中央から西側にかけて遺物包含層が確認されている。このため、基本層序は調査区西側の残存状況良好な箇所の層序を示す。

I 層	10YR3/4	暗褐色土層	耕作土
II 層	10YR6/4	褐色土層	しまり、粘性強い。近代に耕作された水田の床土と思われる。
III 層	10YR4/3	暗褐色土層	しまり、粘性なし。
IV 層	10YR6/4	褐色土層	しまり、粘性強い。近代に耕作された水田の床土と思われる。
V 層	10YR3/3	暗褐色土層	しまり、粘性強い。縄文時代、平安時代の遺物包含層。
VI 層	10YR2/3	黒褐色土層	しまり、粘性強い。縄文時代、平安時代の遺物包含層。
VII 層	10YR3/2	黒褐色土層	しまり、粘性強い。縄文時代、平安時代の遺物包含層。
VIII 層	10YR2/3	黒褐色土層	しまり、粘性ともに極めて強い。地山と考えられる。

## 第IV章 検出された遺構と遺物

### 第1節 1号住居跡（第5図～11図）

1号住居跡は、B・C-4・5グリッドで検出された。他の遺構との重複は認められず、住居の北側は水路の掘削により、消失している。完存する南壁から推測すると一辺約4mの方形プランになると思われる（第5図）。

遺物の出土状況は散在的であるが、覆土中層～上層にかけて出土する傾向が看取され、土師器の壊、皿などの破片が主体となるが、小刀（第11図68）、釣針形金属製品（第11図69）やモモの炭化した核（写真図版4）なども住居跡のほぼ中央から出土している。カマド南側の床面上からは、灯明皿に転用されたと思われる完形の壊（第9図20）が、扁平な自然石と近接して出土したほか、カマド内から出土した土師器皿（第9図40）の破片が住居東側の覆土から出土した破片と接合している。また、住居北西隅で検出された掘り方（第6図）の落ち込みからは土師器壊（第10図55）の破片がまとまって出土している（第7図）。

壁は遺構確認面である地山とその色調が極めて近似し検出に困難したが、地山の非常に硬化した面を確認しながら検出した結果、全体的に若干斜位になる壁面となった。周溝は東壁のカマドが検出された部分を除いて検出されている。最大幅35cm、最小幅23cm、深度は、10～15cmを測る（第5図）。

貼床（4・5層）はほぼ前面に貼られて硬化し、カマド構築材に用いられる灰白色粘土粒子などが混入している。柱穴と考えられるものは、検出されていない（第5図）。

カマド（第8図）は、その構築材となる褐色の粘質土（カマド東西セクション2層）が、東壁際から床面にかけて約1.5mの範囲で検出された。しかし、芯材となる袖石や支脚は検出されず、それが設置されたであろう3箇所にはピットが検出されたのみである。支脚があったと思われるP1の深度は20cm、南側の袖石があったと思われるP2の深度は15cm、北側の袖石があったと思われるP3の深度は10cmとなる。遺物も火床面（網部）直上で土師器皿の破片（第9図40）が出土したのみである。また、カマド構築材による袖も確認できなかったことから、カマドは廃棄された後、故意に壊された可能性が高い。

住居跡掘方（第6図）は比較的平坦であったが、3基のピット（P1深度18cm、P2深度5cm、P3深度6cm）のほか、住居跡南北コーナーで長軸80cm、短軸55cm、貼床面からの深度40cmをはかる落ち込みを検出した。この落ち込みからは、前述のように土師器壊の破片がまとまって出土している。

本住居跡の時期は出土した土師器壊や皿などの特徴から平安時代、9世紀後半世紀に比定されよう。

### 第2節 1号集石遺構（第13図）

1号集石遺構は、C-3グリッドで検出された。南北74cm、東西50cmの範囲内に4～23cm大の礫（砂岩）がまとまって検出された。礫には被熱によって生じたと考えられるヒビや部分的な赤化は認められたが、炭化物などの付着物は確認されていない。また、掘り込みの有無を確認するため遺構断面を観察したが、掘り込みは確認できず、集石下には地山と考えられる基本層のVII層が検出された。本遺構の時期であるが、それを決定する土

器などの遺物が出土していないため、不明である。

### 第3節 土坑（第12図）

5基の小規模な土坑が検出され、いずれも1号住居跡の南側、C-4・5グリッドで検出されている。その規模等は第2表を参照していただきたい。いずれの土坑も長軸が20~30cmの円、楕円形を呈し、近接する1号住居跡とその覆土が近似しているが、土坑の時期を決定する土器などの遺物が出土していないため、その時期は不明である。

### 第4節 グリッド出土遺物（第14図）

本遺跡では遺物包含層がC-3~5グリッドにかけて良好に残存しており、最も厚いC-3~4グリッドにかけては、60~80mに及ぶ。このうち、平安時代の遺物は土師器の破片で主に1号住居跡の上面で出土しており、住居跡の覆土上層で出土した可能性がある。また、細片であったので、ここでは縄文時代の遺物を中心に団化した。縄文時代の遺物は縄文時代前期中葉の糸迦堂Z3式（第14図1）、中期初頭五領ヶ台式（第14図2）中期中葉井戸尻式（第14図5）、中期後葉曾利式（第14図7）、土製円盤（第14図9）、打製石斧（第14図10）、凹石（第14図11）、黒曜石製の石鎌（第14図12・13）などが出土している。

## 第V章 総括

ここでは、検出された遺構や遺物などを通じて、本遺跡の性格やその意義について検討し総括したい。検出された遺構のうちその時期が明確なのは、1号住居跡のみである。1号住居跡からは、土師器の壺、皿、甕、須恵器の甕、灰釉陶器の壺のほか、小刀などの金屬製品やモモの炭化した核などが出土した。このうち遺構の時期の指標となる土師器を概観すると、壺では口縁部が外反ないしは肥厚する兆しをもつ甲斐型壺（第9図1~32）が主体となる。皿は口縁部の形態が壺と同様となり、口縁と体部の屈曲が弱くなる傾向が見られ（第9~10図33・35~42・46）、甕は口径が広がり口縁が厚くなる甲斐型甕がみられるようになる（第10図56・58）。このような特徴を持つ土師器は山梨県史編年のV期に比定されることから、本住居の時期は9世紀後半に位置づけられよう。また、甲府盆地東部に立地する本遺跡の住居跡で、甲府盆地西部でみられる内黒の壺（第10図47~54）が比較的多く出土しているのは注目される。

住居跡はその北側を擾乱によって一部消滅しているが、一辺が約4mの方形プランとなろう。カマドは東壁で検出された。前述したように、カマドはその基礎となる支脚や袖石が検出されず、それらを設置したであろう箇所にはピットが検出されたのみであることから、カマドは故意に壊された可能性がある。また、土師器皿（第9図40）の破片がカマド火床正面から出土し、同一固体が住居跡東側からも出土し接合関係にある。これらのこととを考慮するとカマドは故意に壊され、その後カマド廻棄に伴う祭祀が行われた可能性が指摘できよう。また、住居跡中央付近の覆土中層からは小刀（第11図68）やモモの炭化した核（写真図版4）が近接して出土しており、住居を廻棄した際にもそれに伴う祭祀が行われた可能性がある。

1号住居跡は、豊富に出土した土師器などから9世紀後半代に帰属することが判明した。住居跡の検出は周辺にも同時期の住居跡の存在を予測させるが、花鳥山の斜面に立地する本遺跡の環境からは、集落が展開する可能性は低く、その性格が今後の検討課題となる。

1号集石遺構や5基の小型の土坑からは遺物が出土しておらず、その時期は不明である。1号集石遺構はその検出される時期が、主に縄文時代であることを考慮すれば、包含層から出土している前期から中期にかけての土器片が本遺構の帰属する時期の指標となろう。5基の小型の土坑はいずれも1号住居跡の南側で検出されており、その覆土が住居跡と近似したことから住居跡と同時期の可能性もあるが、竪穴壁外柱穴のような規則性も認められず判然としない。また、包含層から出土した縄文時代前~中期にかけての遺物の出土は、本遺跡の調

査区外にも当該期の遺構の存在を予測させるもので、本遺跡の西側に立地する縄文時代の著名な三光遺跡との関連性が注目される。

以上、太鼓畠遺跡は山梨リニア実験線建設に伴う試掘調査で発見され本格的調査は今回が初となり、縄文時代前期から中期にかけての遺物や、平安時代の住居跡と当該期の遺物が検出されたことは、本遺跡の性格の一端が判明したこととなる。それは周辺地域も含めた原始～古代の様相を知る上で新たな資料と知見が加わると同時に新たな課題も提示されたこととなり、これを機会に今後とも検討を行っていく必要がある。

#### 参考文献

- |        |   |
|--------|---|
| 田代 孝ほか | 1979 「三光遺跡」『御坂町の埋蔵文化財』甲斐丘陵考古学研究会・御坂町教育委員会 |
| 山梨県    | 1998 「資料編1」『山梨県史』                         |
| 山梨県    | 1999 「資料編2」『山梨県史』                         |

第2表 太鼓烟遺跡土坑一覧表

通稱名	固版	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時期	備考
1号土坑	12	C-4	円形	25	23	16	不明	
2号土坑	12	C-5	椭円形	22	18	14	不明	
3号土坑	12	C-5	円形	28	44	23	不明	
4号土坑	12	C-4	椭円形	30	26	18	不明	
5号土坑	12	C-4	円形	21	19	23	不明	

第3表 太鼓烟遺跡出土土器類觀察表 ( ) は推定復元値。青=青母、石=石器、黄=黄石、赤=赤色粒子

固版	No	地点	種別	時期	器種	L/D底/高 (cm)	施文・整形技法	色調・胎土	備考
9	1	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(12.3) / 4.9/3.95	外面ハラケヅリ。底部削り切り	暗褐色・青・黄・赤	V期
9	2	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(12.4) / 5.2/3.7	外面ハラケヅリ	暗赤褐色・黄	V期
9	3	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(12.3) /—/—	ロクロナデ	暗褐色・青・黄・赤	V期
9	4	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(12.3) /—/—	外面ハラケヅリ	暗褐色・石・黄・赤	V期
9	5	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(8.0) / (5.8) / 4.0	ロクロナデ	暗褐色・黄・赤	V期
9	6	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(11.9) /—/—	外面ハラケヅリ	褐色・黄	V期
9	7	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(11.2) /—/—	外面ハラケヅリ	褐色・青・黄・赤	V期
9	8	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(12.4) / 5.2/3.7	外面ハラケヅリ。底部削り切り後 ヘラツギ	褐色・黄・赤	V期
9	9	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(11.0) /—/—	外面ハラケヅリ	褐色・黄・赤	V期
9	10	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(10.8) /—/—	ロクロナデ	褐色・青・黄・赤	V期
9	11	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(12.1) /—/—	ロクロナデ	褐色・石・赤	V期
9	12	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(11.7) /—/—	ロクロナデ	暗褐色・青・石	V期
9	13	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(10.8) /—/—	ロクロナデ	暗褐色・青・石・黄・赤	V期
9	14	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(12.1) /—/—	ロクロナデ	褐色・石・赤	V期
9	15	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(10.0) /—/—	ロクロナデ	褐色・青・石・黄・赤	V期
9	16	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(15.6) /—/—	ロクロナデ	褐色・青・赤	V期
9	17	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(16.0) /—/—	ロクロナデ	褐色・黄・赤	V期
9	18	1号住居跡	土縁器	平安	坪	—/5.5/—	外面下平～底部ハラケヅリ	暗褐色・青・石・黄・赤	V期
9	19	1号住居跡	土縁器	平安	坪	—/ (5.8) /—	外面上平～底部ハラケヅリ	褐色・石・黄	V期
9	20	1号住居跡	土縁器	平安	坪	12.0/5.2/4.4	外面ハラケヅリ	暗褐色・青・黄・赤	V期 口縁部内面に埋付着
9	21	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(11.0) /—/—	ロクロナデ	暗褐色・青・黄	V期
9	22	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(11.3) / 4.9/4.05	外面ハラケヅリ・内面昭文	暗褐色・青・黄・赤	V期
9	23	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(10.3) /—/—	外面ハラケヅリ・内面昭文	褐色・青・赤	V期
9	24	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(10.0) /—/—	外面ハラケヅリ・内面昭文	褐色・青・赤	V期
9	25	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(14.2) / (5.4) / 4.45	外面ハラケヅリ・内面昭文	褐色・青・黄・赤	V期
9	26	1号住居跡	土縁器	平安	坪	—/4.2/—	外面ハラケヅリ・内面昭文	褐色・石・黄	V期
9	27	1号住居跡	土縁器	平安	坪	—/ (5.6) /—	外面ハラケヅリ・内面昭文	褐色・青・石・黄・赤	V期
9	28	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(14.0) /—/—	外面ハラケヅリ・内面昭文	暗赤褐色・黄・赤	V期
9	29	1号住居跡	土縁器	平安	坪	—/4.5/—	底部外面部切り・内面昭文	暗赤褐色・青・石	V期
9	30	1号住居跡	土縁器	平安	坪	—/ (5.6) /—	底部外面部ハラケヅリ・内面昭文	褐色・青・石・黄・赤	V期
9	31	1号住居跡	土縁器	平安	坪	—/4.5/—	底部外面部ハラケヅリ・内面昭文	暗褐色・青・石・黄・赤	V期
9	32	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(11.0) / 4.5/4.0	外面ハラケヅリ・内面昭文	暗赤褐色・青・石・黄	V期 内外面埋付着
9	33	1号住居跡	土縁器	平安	皿	(12.8) / 4.6/2.1	ロクロナデ・底部外面部ハラケヅリ	褐色・青・赤	V期
9	34	1号住居跡	土縁器	平安	皿	(13.4) / (4.6) / 2.6	ロクロナデ・内面昭文	暗褐色・青・石・黄・赤	V期か
9	35	1号住居跡	土縁器	平安	皿	(13.1) /—/—	ロクロナデ	褐色・石・黄・赤	V期
9	36	1号住居跡	土縁器	平安	皿	(12.4) / (5.3) / 2.4	ロクロナデ	褐色・青・石・黄・赤	V期
9	37	1号住居跡	土縁器	平安	皿	(13.0) /—/—	ロクロナデ	暗褐色・青・石・黄・赤	V期
9	38	1号住居跡	土縁器	平安	皿	(13.0) /—/—	ロクロナデ	暗褐色・青・石・黄・赤	V期
9	39	1号住居跡	土縁器	平安	皿	(13.2) /—/—	ロクロナデ	浅黄褐色・青・赤	V期
9	40	1号住居跡	土縁器	平安	皿	12.6/5.7/2.8	ロクロナデ・底部外面部ハラケヅリ	褐色・青・黄・赤	V期 内外面埋付着
10	41	1号住居跡	土縁器	平安	皿	(13.2) /—/—	ロクロナデ	暗褐色・青・石・黄・赤	V期
10	42	1号住居跡	土縁器	平安	皿	(13.2) /—/—	ロクロナデ	暗褐色・青・石・黄・赤	V期
10	43	1号住居跡	土縁器	平安	皿	(13.7) /—/—	ロクロナデ	褐色・青・石・黄・赤	V期
10	44	1号住居跡	土縁器	平安	皿	—/ (4.9) /—	ロクロナデ	褐色・青・石・黄・赤	V期
10	45	1号住居跡	土縁器	平安	皿	—/ (5.0) /—	ロクロナデ	暗赤褐色・青・赤	V期
10	46	1号住居跡	土縁器	平安	皿	(13.3) /—/—	ロクロナデ・内面昭文	内面黒色・青・白	V期
10	47	1号住居跡	土縁器	平安	坪	15.6/6.6/5.8	ロクロナデ・外面上半から底部 ハラケヅリ・内面内里・昭文	暗赤褐色・青・黄・赤	V期
10	48	1号住居跡	土縁器	平安	坪	(15.6) /—/—	ロクロナデ・内面内里・昭文	褐色・青・黄・赤・石・赤	V期

図版	№	地点	種別	時期	器種	口/底/高 (cm)	施文・整形技法	色調・地土	備考
10	49	1号住居跡	土師器	平安	环	(36.0) /—	ロクロナヂ、内面内墨、略文	褐色、石・黄・赤	V期
10	50	1号住居跡	土師器	平安	环	(21.4) /—	ロクロナヂ、内面内墨、ヘラミガキ、略文	褐色、石・黄・赤	V期
10	51	1号住居跡	土師器	平安	环	—/ (5.5) /—	ロクロナヂ、内面内墨、ヘラミガキ、略文、底部ケズリ出し窓	褐色、石・黄・赤	V期
10	52	1号住居跡	土師器	平安	环	—/ (10.4) /—	ロクロナヂ、内面内墨、ヘラミガキ、略文	褐色、石・黄・赤	V期
10	53	1号住居跡	土師器	平安	环	—/ (6.8) /—	ロクロナヂ、内面内墨、略文	褐色、石・黄・赤	V期
10	54	1号住居跡	土師器	平安	环	—/ (6.4) /—	ロクロナヂ、内面内墨、略文、底部ケズリ出し窓台	褐色、石・黄・赤	V期
10	55	1号住居跡	土師器	平安	甕	18.4 /—	内外面ともハケメ	暗褐色、石・黄	V期
10	56	1号住居跡	土師器	平安	甕	(27.6) /—	内外面ともハケメ	暗褐色、石・黄	V期
10	57	1号住居跡	土師器	平安	甕	(17.2) /—	内外面ともハケメ	暗褐色、石・黄	V期
10	58	1号住居跡	土師器	平安	甕	(29.0) /—	内外面ともハケメ	暗褐色、石・黄	V期
10	59	1号住居跡	土師器	平安	甕	—/—	内外面ともハケメ	暗褐色、石・黄	V期
10	60	1号住居跡	土師器	平安	甕	—/ (12.8) /—	内外面ともハケメ、底部外面部要張	暗褐色、石・黄	V期
10	61	1号住居跡	土師器	平安	甕	—/ (8.0) /—	内外面ともハケメ、底部外面部要張	暗褐色、石・黄	V期
11	62	1号住居跡	須恵器	平安	甕	—/—	内外面ともタキメ	灰色、黄・赤	V期か
11	63	1号住居跡	須恵器	平安	甕	—/—	外表面タキメ	暗褐色、内面灰色	V期か
11	64	1号住居跡	須恵器	平安	甕	—/—	内外面ともタキメ	灰色、黄	V期か
11	65	1号住居跡	須恵器	平安	甕	—/—	外表面タキメ、内面ハナメ	灰色、黄・赤	V期か
11	66	1号住居跡	須恵器	平安	甕	—/—	内外面ともタキメ	灰色、黄・赤	V期か
11	67	1号住居跡	从陶陶器	平安	甕	—/—	ロクロナヂ、外表面灰	褐色、石・黄	V期か
14	1	C-3	绳文	绳文前	深钵	—/—	单脚圈足施文	赤褐色、石・黄・赤	前期中里糸井塚Z.3式
14	2	C-4	绳文	绳文中	深钵	—/—	口縁部に横走する沈線、交互刺突文	暗褐色、石・黄	中期初期五脚台口式
14	3	C-5	绳文	绳文中	深钵	—/—	連續内押文施文	褐色、石・黄・赤	中期中里糸井塚式
14	4	C-4	绳文	绳文中	深钵	—/—	横走する障壁と沈線、交互刺突文を施す	暗褐色、石・黄・赤	中期初期五脚台口式
14	5	B-4	绳文	绳文中	深钵	—/—	瓜形文を施す障壁。平行沈線を施す	褐色、石・黄・赤	中期中里糸井塚式か
14	6	C-4	绳文	绳文中	深钵	—/—	微隆起が垂下する	赤褐色、石・黄	中期末期加曾利E式か
14	7	C-4	绳文	绳文中	深钵	—/—	斜行沈線を施す	褐色・黄色、石・黄	中期後期曾利E式
14	8	C-3	绳文	绳文中	深钵	—/11.8/—	单脚圈足施文	暗褐色、石・黄・赤	中期初期五脚台口式か

第4表 太鼓烟遺跡出土石器觀察表

図版	№	地 点	分類	長/幅/厚 (cm)	重さ (g)	石 材	色 調	備 考
14	10	B-4	打堅石斧	7.3/1.9/1.9	92	粘板岩	青灰色	完存
14	11	C-4	石刀	(8.4) / (8.05) /4.7	458	安山岩	灰黄色	約1/2欠損
14	12	C-4	石凿	(1.7) / (1.2) /0.4	0.7	黑曜石	黑色	留滞欠損
14	13	C-5	石凿	(1.9) / (1.4) /0.4	0.9	黑曜石	黑色	剥落及び落部欠損

第5表 太鼓烟遺跡出土土製品観察表

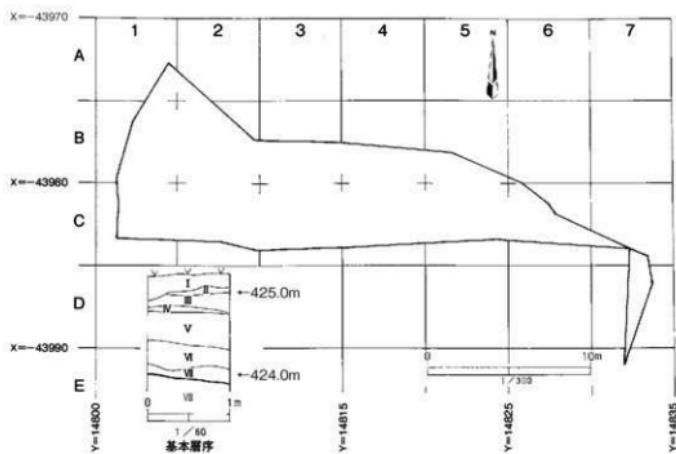
図版	№	地 点	分類	長/幅/厚 (cm)	重さ (g)	石 材	色 調	備 考
14	9	C-3	土製円盤	4.6/3.9/1.1	22	土器	明褐色、石・黄・赤	縄文時代中期の土器片を加工

第6表 太鼓烟遺跡出土金属製品観察表

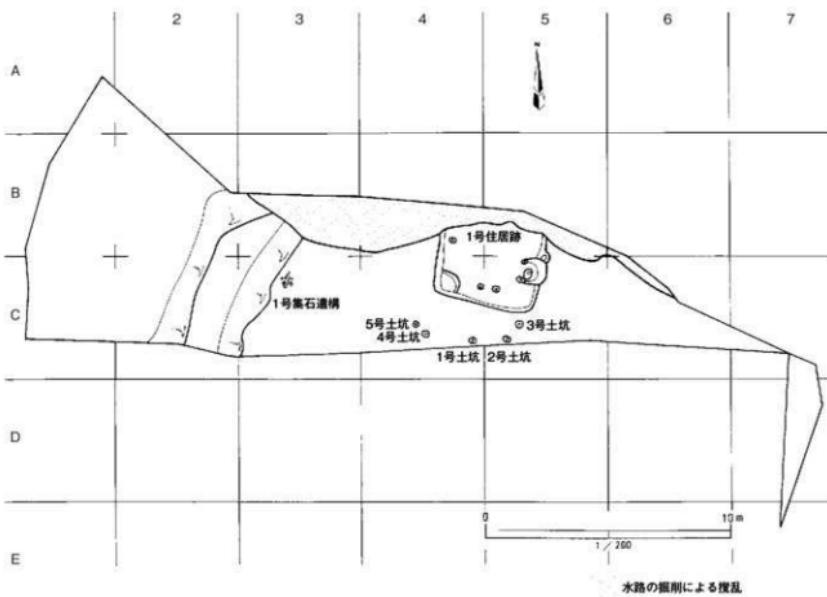
図版	№	地 点	分類	長/幅/厚 (cm)	重さ (g)	石 材	色 調	備 考
11	68	1号住居跡	小刀	16.6/1.1/0.8	19.1	鉄	2個の断片が結合	
11	69	1号住居跡	鉄針状金具製品	4.2/0.5/0.5	1.9	鉄		

第7表 太鼓烟遺跡モヨ炭化核觀察表

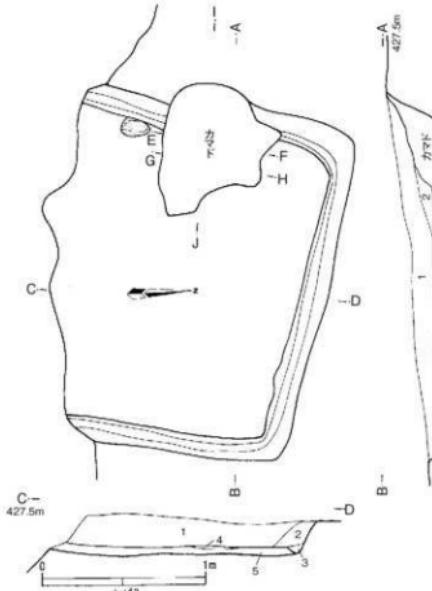
写真図版	位 置	地 点	幅/幅/厚 (cm)
4	左	1号住居跡	2.2/1.7/0.5
4	右	1号住居跡	2.3/1.4/0.3



第3図 太鼓烟遺跡グリッド設定図・基本層序

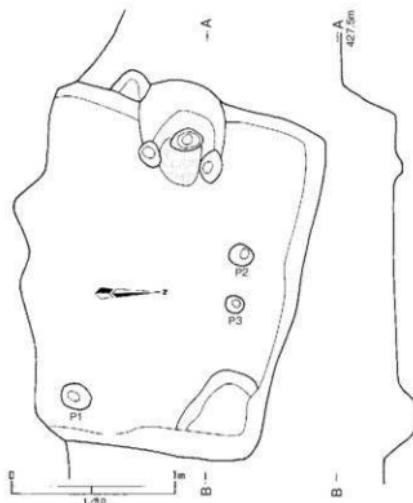


第4図 太鼓烟遺跡遺構全体図



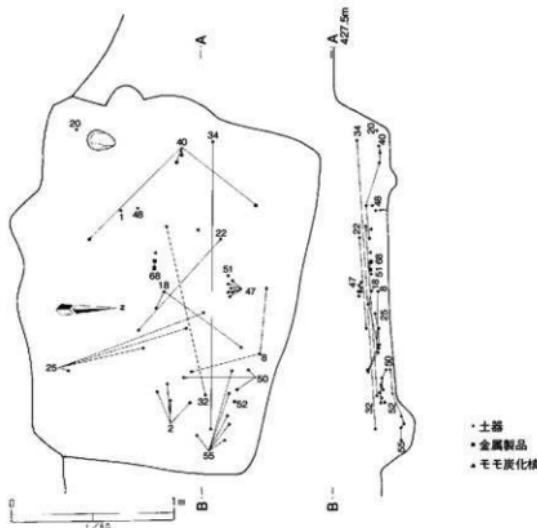
第5図 1号住居跡 平・断面図

- 1号住居跡
- 1層 10YR3/3黒褐色土層 しまり、粘性有り。  
1~5mm大の赤褐色粒子、炭化物粒子を混入。腐泥土。
  - 2層 10YR3/4緑褐色土層 しまり、粘性有り。  
1~3mm大の赤褐色粒子を混入。
  - 3層 10YR3/4緑褐色土層 しまり、粘性有り。  
1~5mm大の赤褐色粒子、炭化物粒子を混入。腐泥土。
  - 4層 10YR7/4(レシード)黄褐色土層 しまり、粘性有り。  
1~3mm大の赤褐色粒子、灰白色粘土を混入。粘土。
  - 5層 10YR2/3黒褐色土層 しまり、粘性有り。  
1~5mm大の赤褐色粒子、炭化物粒子を混入。粘土。



火床面

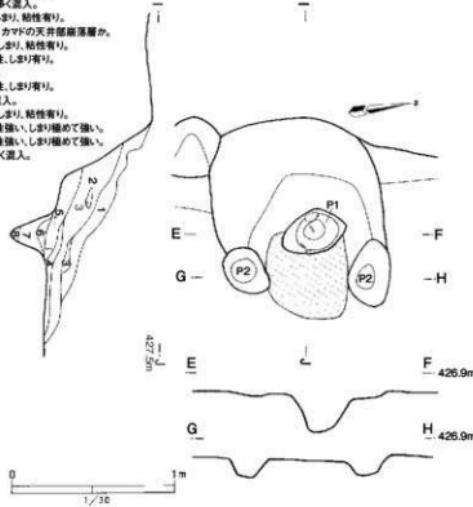
第6図 1号住居跡掘方 平・断面図



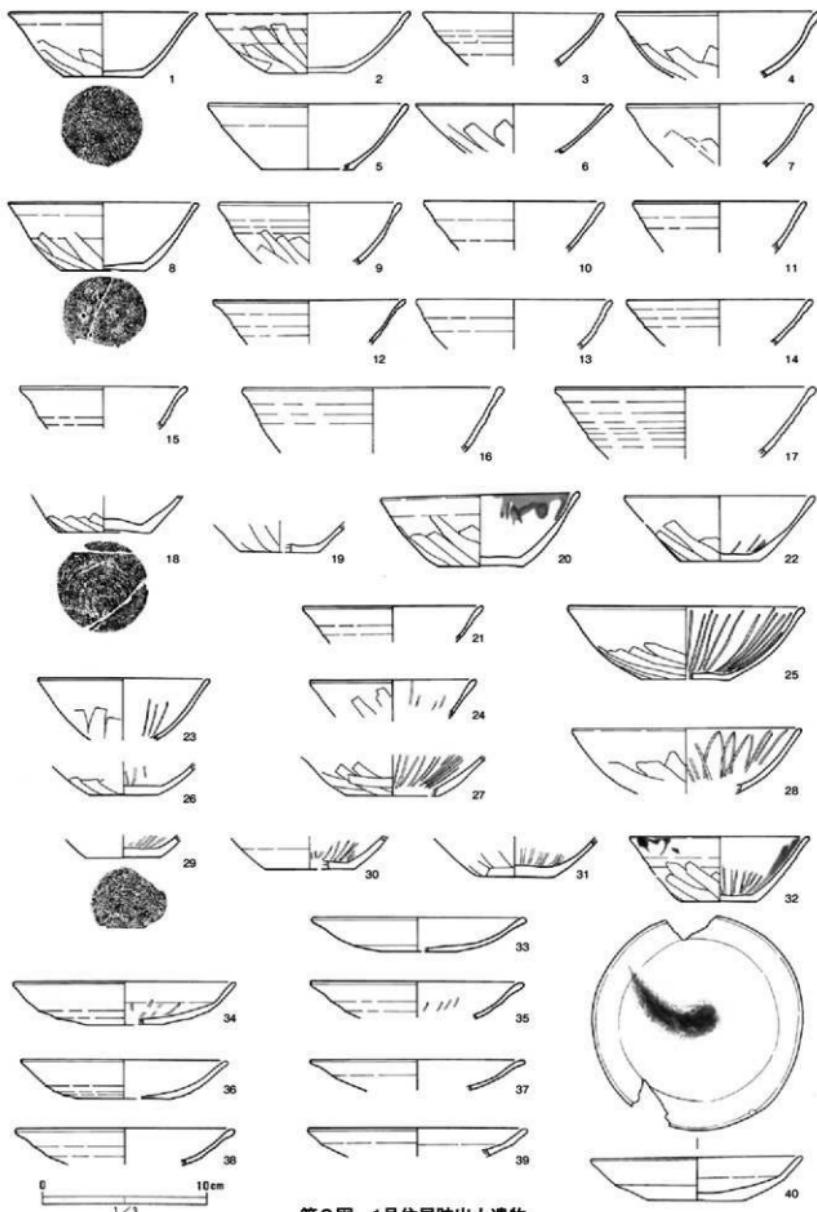
第7図 1号住居跡 遺物出土状況図

カマド

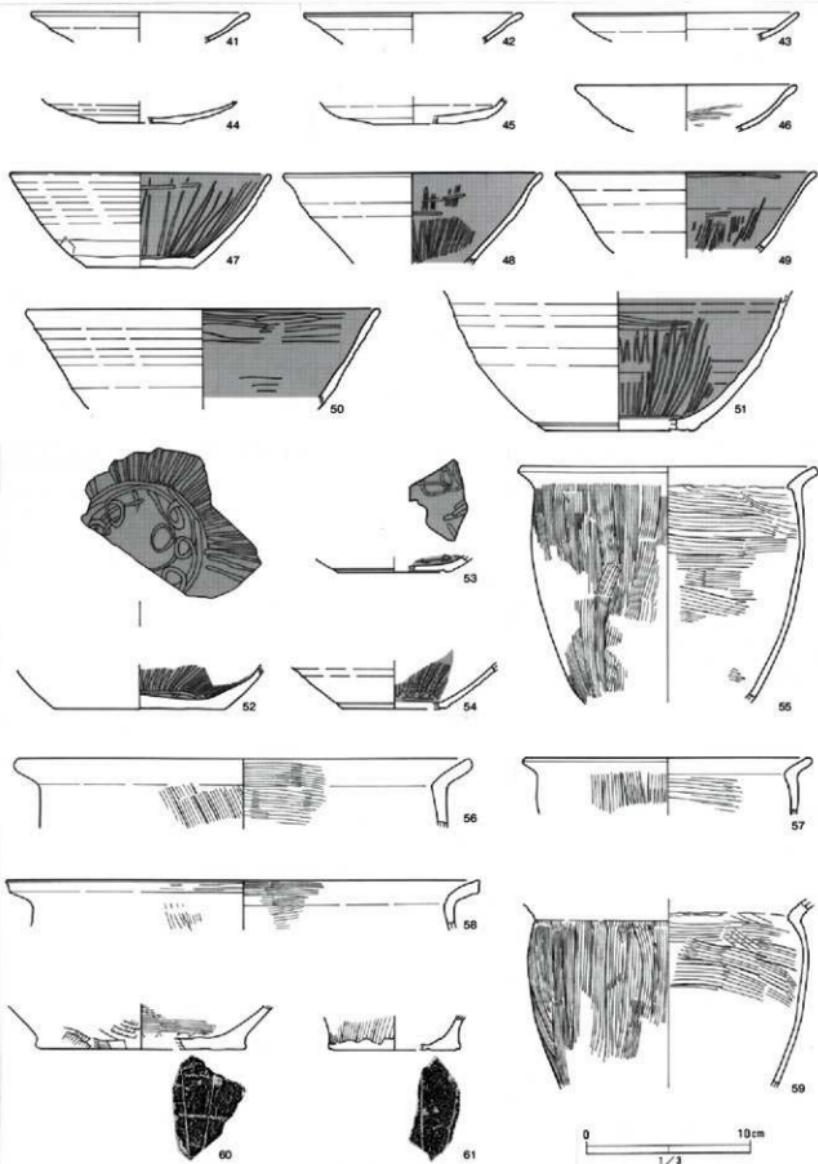
- 1層 10YR3/4暗褐色土層 しわり、粘性有り。  
5~20mmの黄褐色粘質土を多く混入。
- 2層 10YB4/6褐色粘土層 しわり、粘性有り。  
5~15mmの大粒粘土粒子混入、カマドの天井部底層層か。
- 3層 5YR3/6暗赤褐色粘土層 しわり、粘性有り。
- 4層 10YR2/3深褐色土層 粘性、しわり有り。  
5~15mmの大粒粘土粒子混入。
- 5層 10YR2/3深褐色土層 粘性、しわり有り。  
5~15mmの大粒粘土粒子多く混入。
- 6層 5YR2/3暗赤褐色粘土層 しわり、粘性有り。
- 7層 10YR2/3深褐色土層 粘性強い、しわり極めて強い。
- 8層 10YR2/3深褐色土層 粘性強い、しわり極めて強い。  
1~3mm大の赤褐色粒子を多く混入。



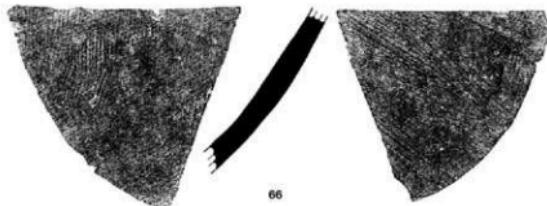
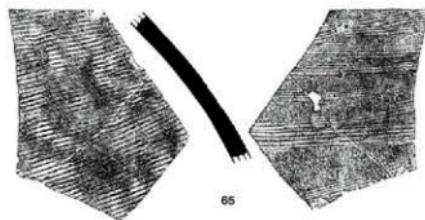
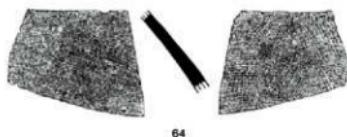
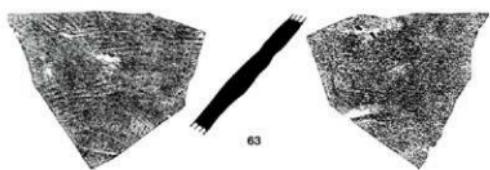
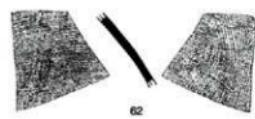
第8図 1号住居跡カマド 平・断面図



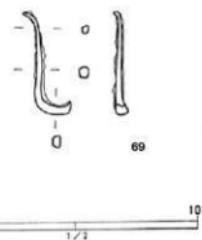
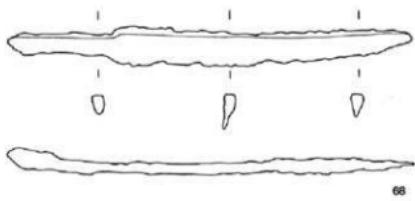
第9図 1号住居跡出土遺物



第10図 1号住居跡出土遺物

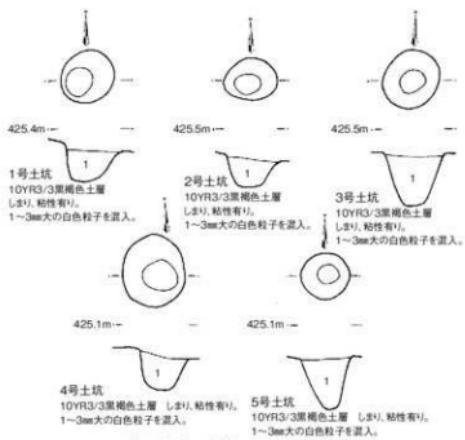


0 10cm  
1/3

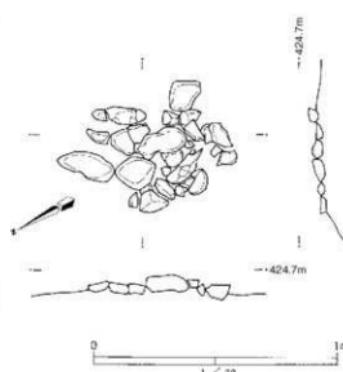


0 10cm  
1/3

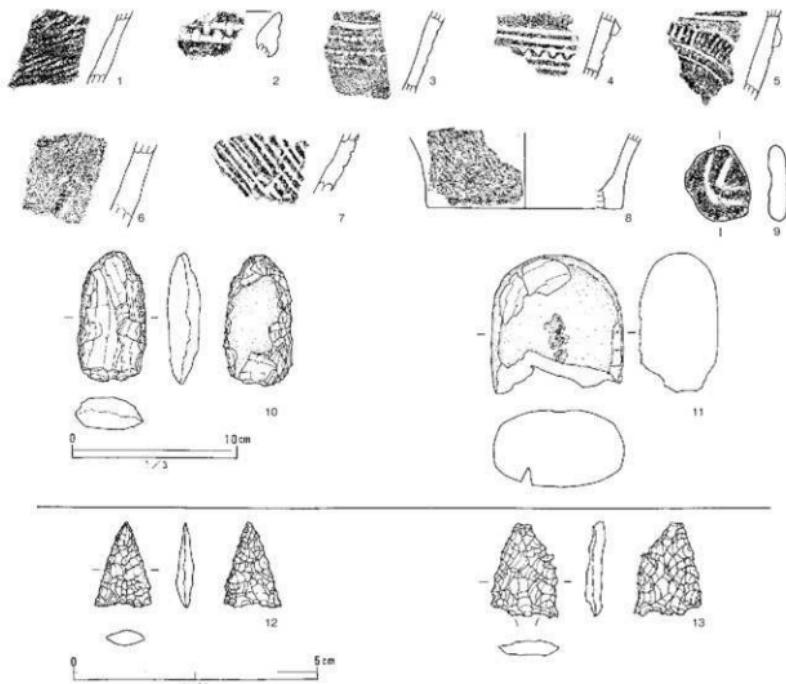
第11図 1号住居跡出土遺物



第12図 土坑 平・断面図



第13図 1号集石遺構 平・断面図



第14図 グリッド出土遺物

# 写 真 図 版



遺跡遠景 東から





太鼓烟遺跡全景



調査着手前



1号住居跡全景（西から）



1号住居跡カマド（西から）

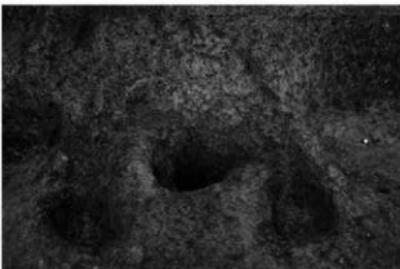


1号住居跡カマド東西セクション（北から）

図版2



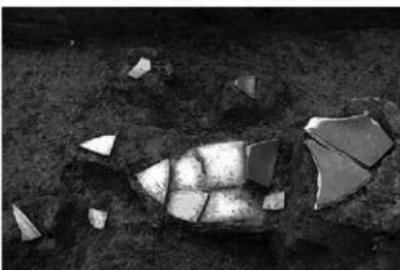
1号住居跡カマド遺物出土状況（西から）



1号住居跡カマド完掘状況（西から）



1号住居跡カマド北側出土状況



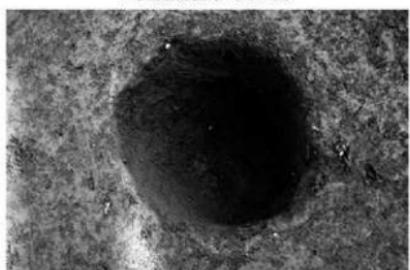
1号住居跡遺物出土状況



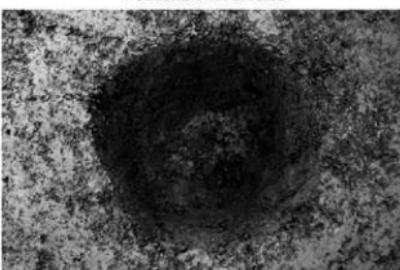
1号住居跡掘方（西から）



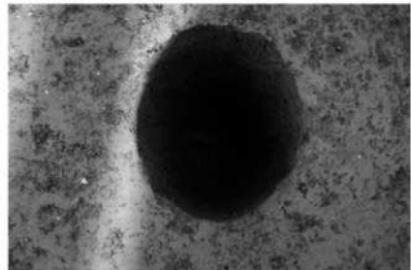
1号住居跡小刀出土状況



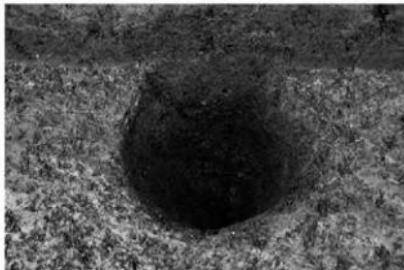
1号土坑



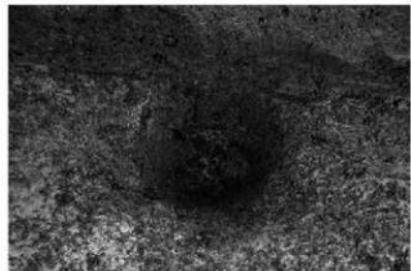
2号土坑



3号土坑



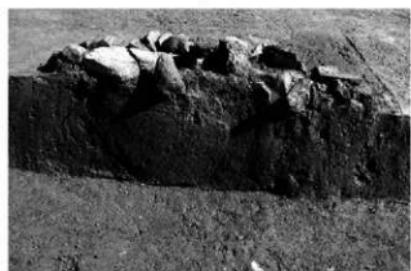
4号土坑



5号土坑



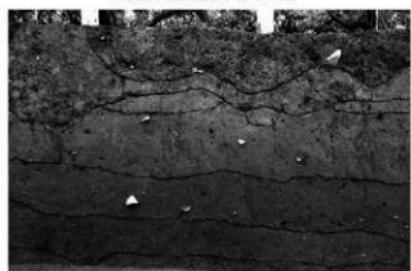
1号集石遺構（西から）



1号集石遺構断面（西から）



包含層遺物出土状況



包含層断面



調査風景

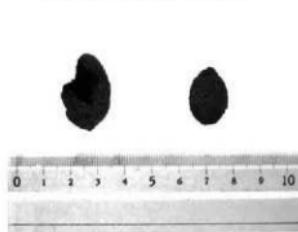
図版4



1号住居跡出土遺物（壊・皿）



1号住居跡出土遺物（鐵・臺）



1号住居跡出土モモ炭化核



グリッド出土土器



グリッド出土石器



グリッド出土石器

# 報告書抄録

ふりがな	たいこばたいせき							
書名	太鼓畠遺跡							
副題	山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書							
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第270集							
著者名	三田村美彦							
発行者	山梨県教育委員会、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構							
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター							
所在地・電話	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 TEL 055-266-3016							
発行年月日	2011年3月25日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号					
たいこばたいせき やまなしけん ふえ ふきし みさかちよ う たけいらない		19201	御坂108	35° 36' 13"	138° 40' 9"	20090828 ~ 20091104	140	山梨リニア 実験線建設
太鼓畠遺跡	山梨県笛吹市 御坂町竹居地内							
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項		
太鼓畠遺跡	集落跡	縄文・平安		住居跡・集石 遺構・土坑	繩文土器・石器・ 土師器	平安時代の住居跡1 軒を検出。多数の遺 物が出土。		
要約	本遺跡の調査は山梨リニア実験線建設に伴い実施された。遺跡は御坂山塊から北流する河川 で形成された小丘上に立地する。縄文・平安時代の遺物包含層や、平安時代の住居跡1軒、時 期不明の集石遺構1基、小規模な土坑5基などが検出された。							

## 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第270集

# 太鼓畠遺跡

## 山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書

印刷日 2011年3月10日

発行日 2011年3月25日

編集 山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923

TEL 055-266-3016 FAX 055-266-3882

<http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/index.html>

発行 山梨県教育委員会、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構

印刷 港北出版印刷株式会社

